

令和7年度

授業改善推進プラン

板橋区立加賀中学校

令和7年9月

授業改善推進プラン

教科名【国語科】 学年【7年】

生徒の状況	・全体として授業に集中して取り組むことができている。 ・提出物は多くの生徒がしっかりと提出できているが、期限から遅れて提出する生徒もいる。 ・自分なりの意見を持ち、活発に意見交換をする生徒が多い。 ・国語に対し苦手意識を持っている生徒が少なくないものの、授業中の発言は比較的活発な方である。
指導についての課題	・テスト前の一時的なものではなく、知識を定着させる。 ・自分の持つ意見や考えを他者に伝えられるようにする。 ・漢字の学習に意欲的且つ長期的に取り組む。 ・文章の中で用いられている表現の技法について理解する。 ・話題や展開を捉えながら話し合い、発言を結び付けて考えをまとめる。
授業革新推進に向けての具体的な方策	・反復演習を行い、知識を確実なものにする。 ・提出物について順序立てて取り組めるよう声をかけていく。 ・自分なりの意見や根拠をあげながら他者へと伝えられるよう、文章を書く練習を積んでいく。 ・理論立てた文章を書けるように文章を書く練習を積んでいく。 ・定期試験の結果を踏まえて、知識・技能が得点率として低い傾向にある。したがって、毎週末に学習課題を設定し、漢字の学習を取り入れ漢字習得の足がかりにする。 ・表現の技法について理解したことを、文章を読んだり、自分の考えを伝えたりする場面で活用できるようにする。そのためには、表現が工夫されている文章や詩歌などを取り上げ、用いられている表現の技法に着目し、その名称などを確かめた上で、その効果について自分で考えたり、自分の表現に生かしたりするなど、知識と活用場面が結びつくように指導する。 ・話し合いを通して、考えを広げたり、深めたりするには、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめることが大切である。そのためには、話し合いの目的や話題を意識し、話し合いがどのような段階であるかを捉えながら話したり、聞いたりできるように指導する。

授業改善推進プラン

教科名【国語科】 学年【８年】

生徒の状況	・開始、終了のあいさつをはじめ、１時間全体を通して授業規律が保たれている。 ・「知識・技能」全体の正答率は約 56％であった。大問別では文法分野の正答率が低い結果となった。 ・「思考・判断・表現」においては、１学期期末考查において、登場人物の場面ごとの心情を問う選択問題への正答率が他の問題に比して低かった。
指導についての課題	・漢字の読み書きを中心とした漢字の知識や古典分野の知識を問う問題の正答率を向上させること。 ・文法分野の知識を定着させること。 ・文学的文章において、本文の記述を根拠に登場人物の心情を、限られた文字数で説明することができるようにするべく発問を工夫すること。また、類似の取組を繰り返し、定着を図ること。
授業改善に向けての具体的な方策	☆板橋区授業スタンダード徹底の継続 ・本時の「めあて」を冒頭に確認し、何を学び、何を達成すべきかを明確にする。 ・「まとめ」と「振り返り」を通して、自己の学習を調整できる力を意識させる。 ・漢字については定期的に小テストを実施し、少しずつ確実に習得できるようにする。 ・古典の学習では暗記事項の知識の定着を図りつつ、歴史的背景の説明等を通して、古典の面白さに気付かせる指導を心掛ける。 ☆表現力の向上につながる OUTPUT ・少人数グループでの活動を取り入れ、考えたことを相手に伝える活動を通して、自らの考えを整理させる指導を行う。 ・考えを述べる際は、意見だけでなく文中の根拠と合わせて述べる、など教科書を読む活動を積極的に取り入れ、読み解く力の向上を図る。

授業改善推進プラン

教科名【国語科】 学年【９年】

生徒の状況	・「全国学力・学習状況調査」では、全ての区分において都・全国の平均正答率を上回る結果となり、特に、３問出題された記述式の問題形式に対する正答率がいずれも 10～20%ほど高かった。他の問題も全国の正答率を下回ったものはなかった。ただ都の無回答率を若干上回った問題が、語句の意味を答える問題であったことと、漢字の正答率が都より下回っていた。このことから、漢字・語句などの「知識・技能」に課題があることがわかった。「思考力・判断力・表現力」の正答率は都よりも10%ほど高いという結果だった。ただ授業や課題への取組状況等から見ると、文章の構成や表現の効果など、筆者の意図を読み取って内容を理解するということを苦手とする生徒が多く、「なぜこのような論の展開をしているのか」「この言葉・表現を用いることでどのような効果を意図しているのか」など、より批判的に文章を読む力を身に付ける必要がある。
指導についての課題	・定期考査の漢字テストでも書けない漢字が半分以上ある生徒が20%以上いることと文法に苦手意識をもつ傾向があるため、漢字学習や文法学習の時間を確保し、「知識・技能」の定着を図ることが課題である。 ・自分の考えを書く課題に対して前向きに取り組む姿勢が定着しているので、課題の意図を理解し、何を・どのように書けばよいのかを自身で読み取り、内容をより深めさせることが課題である。
授業改善に向けての具体的な方策	・新出漢字は漢字ノートを用いて反復練習で定着させる。同時に入試指導としての漢字テストを設定し家庭学習を促す。文法学習は文の成分・品詞において間違いやすいところを中心に丁寧に指導する。 ・200字作文の練習もかねて単元が終わるごとに課題を設定し作文に取り組ませる。その際に、「何を・どのように書いたらB評価（A評価）なのか」という評価基準や「このような書き方では不十分である」という具体例、A評価の具体例をあげ、全体と個へ助言する指導を継続する。 ・文章読解においては、筆者の意図を推し測って読みながら、自分の考えを作るといった批判的な読み取りを意識するように指導する。

授業改善推進プラン

教科名【社会科】 学年【7年】

生徒の状況	・3単位時間中、地理的分野を2単位時間、歴史的分野を1単位時間で授業を行っている。 ・3～4人編成でのグループ学習を中心に、授業を行っている。 ・課題解決に向け、教科書本文や資料を生徒が読み取り、読み取った情報から予想を立て、調べるという問題解決型の学習活動を取り入れている。
指導についての課題	・教科書の本文を理解したり、資料から情報を読み取ったりすることが苦手な生徒が多い。 ・手に入れた情報を基に課題に対する自身の考えを構築する際、文章にしたり、口頭でわかりやすく相手に伝えたりすることが苦手な生徒が多い。 ・積極的に自分の意見を発表する生徒がいる一方、発表活動等に消極的な生徒も多く、発言する生徒が固定化されている。
授業改善に向けての具体的な方策	・課題に対する回答を、生徒が自分の中で整理して表現できるよう、1つの中心発問(MQ)に対して、いくつかの補助発問(SQ)を用意し、生徒が「回答の道筋」を立てやすくする工夫をする。 ・教科書の資料だけでなく、資料集やクロームブック等も活用しながら生徒が資料を読み取る場面を増やすとともに、読み取った情報を課題解決に活用する機会を増やすよう授業を構成していく。 ・グループ活動や発表の場で生徒の意見を積極的に肯定することで、異なる意見に対して寛容な雰囲気を醸成し自分の意見を発表しやすくするとともに、簡単な発問や誰にでも取り組みやすい活動などでは、挙手ではなくランダムに生徒を指名する機会を設けることで発表活動に対する精神的なハードルを低くする。

授業改善推進プラン

教科名【社会科】 学年【８年】

生徒の状況	・週に３単位時間あり、単元等で地理的分野と歴史的分野を区切り、交互に授業を行っている。 ・昨年度の学年末考査と比べると１学期末考査の平均点が６３点と８点上がっている。 ・３～４人編成でのグループ学習を中心に授業を行っている。課題に対して意欲的に取り組む生徒がおり、社会科に対して苦手意識がある生徒も他の生徒の意見や資料の見方・考え方などを参考にして自らの意見を述べるようになってきた。
指導についての課題	・課題に対して教科書やインターネットなどを活用して調べ、意見や考えを述べる。インターネットを活用したとき、検索で出てくる「ＡＩによる予測」を、そのまま書き写している生徒がいる。そのため、発表する機会に書いた文字（漢字）を読めないこと、文字（漢字）や書き写した内容が理解できていないために、具体的な説明を教員が求めても生徒が説明できない。 ・定期考査などの論述問題をみると、適切な語句を選択して使用することや、文章を組み立てて説明できる生徒が少ない。 ・資料を読み取る力は少しずつ向上している。資料から地域のことや世界との結びつきなどを予測することや、２つ以上の資料の関連性に気付くことができる生徒が少ない。
授業改善に向けての具体的な方策	・インターネットを適切に活用し、都度ＡＩ予測などを活用する際の指導・助言を行っていく。 ・論述で表現する課題に対し、プリントなどの添削を行い、文章構成力の向上を支援する。また、自分の意見を考えて、表現する際には文章で表現する活動では、図や表にして、文章化するための流れなどを育てる活動などを取り入れる。 ・授業中から、教科書やそれ以外の資料を活用し、資料の読み取りの機会を増やす。また、机間指導を通して、資料から何を読み取るかなどの援助を行っていく。

授業改善推進プラン

教科名【社会科】 学年【9年】

生徒の状況	・ 4 単位時間中、歴史的分野を 3 単位時間、公民的分野を 1 単位時間で授業を行っている。 ※2 学期途中から、政治経済分野を 3 時間で履修する。 ・ 3～4 人グループで FigJam を活用し、整理した内容を文章に書いてまとめる活動を取り入れている。 ・ 期末考査の平均点は 70 点以上を記録している。特に知識・技能の観点では 40 点近く得点を記録している。
指導についての課題	・ スマホやパソコンなど、多様な情報発信媒体があるにもかかわらず、自らの興味や関心がある情報に多く触れているが、授業で学んだことと日常生活とどのようなつながりがあるのか理解していない生徒がいる。 ・ 授業で学んだ内容をまとめて、文章に書く力はあるが、図表やフローチャートにまとめることが難しい。 ・ 資料を読み取る力に大きな差が見られるようになってきている。特に、図表やグラフ、文章資料などから必要な情報を的確に取り出し、課題に関連づけて考えることが苦手な生徒が一定数いる。また、与えられた資料を表面的に眺めるだけで、資料が示している本質や意図を読み取ることが難しい生徒がいる。
授業改善に向けての具体的な方策	・ 授業の導入で生活に関わる具体的な問いを提示し、学習内容が自分の身の回りとう関係しているかを意識づけることで、学びへの興味と実感を高める工夫を行う。 ・ 文章を箇条書きにする練習から始める。フローチャートへの変換を段階的に行うことで、図式化の力を無理なく育成し、テンプレートの活用で表現の幅を広げる ・ 資料を読み取る際の視点や着眼点をあらかじめ示し、個別の読み取りだけでなくペアやグループでの対話的な活動を取り入れることで、資料の本質や作成者の意図を深く捉える力を育てる。

授業改善推進プラン

教科名【数学科】 学年【7年】

生徒の状況	・習熟度別少人数授業実施（2クラス3展開） ・全体的に集中して授業に取り組んでいる。 ・互いに教え合う活動が充実するようになってきている。 ・数学を積極的に学ぶ生徒が多い。 ・自分の考えた数式をどのように考えたか伝えることを頑張っている。
指導についての課題	・授業内で学び合い活動を行う際に、数学的な用語を用いて説明できるよう指導を行うこと。 ・授業内で自分の考えを式やことばで表現したり他の人の考えを式やことばから読み取ったりする機会を充実させること。
授業改善に向けての具体的な方策	・定期テストや小テスト、学習課題への取り組みにより生徒の理解度を適切に把握し、補習等により生徒に必要な支援をする。 ・学力向上専門員と生徒の学習情報を共有し、個別指導が必要な生徒への支援を充実させる。 ・解法やわかったことを発表する際、数学的な用語を用いて説明できるように促す。また、ノートのまとめ・ふりかえりの活動を充実させる。 ・問題文の数値や着目すべきことばに線をひくことや、表に整理すること、図に書くことなどを通して読み解く力の向上を目指す。 ・教科書を使った家庭学習の充実を目指し、基礎的な学習内容である知識・技能を確実に習得できるようにする。

授業改善推進プラン

教科名【数学科】 学年【８年】

生徒の状況	・習熟度別・少人数授業実施（２クラス３展開、１クラス２展開） ・全体的に集中して授業に取り組んでいる。 ・互いに教え合う活動が充実するようになってきている。 ・意欲的に授業に取り組むことができているが、自分の考えを数式やことばで伝えることを苦手としている生徒が多い。
指導についての課題	・中学校で学ぶ基礎・基本となる学習内容の定着が十分でない生徒への支援を充実させること。 ・文章題を苦手としている生徒が多くいるため、文章から必要な数値や情報を表にまとめられるよう指導すること。 ・授業内で自分の考えを式やことばで表現したり他の人の考えを式やことばから読み取ったりする機会を充実させること。
授業改善に向けての具体的な方策	・定期テストや小テスト、学習課題への取り組みにより生徒の理解度を適切に把握し、補習等により生徒に必要な支援をする。 ・学力向上専門員と生徒の学習情報を共有し、個別指導が必要な生徒への支援を充実させる。 ・解法やわかったことを発表する際、数学的な用語を用いて説明できるように促す。また、ノートのまとめ・ふりかえりの活動を充実させる。 ・問題文の数値や着目すべきことばに線をひくことや、表に整理すること、図に書くことなどを通して読み解く力の向上を目指す。 ・教科書を使った家庭学習の充実を目指し、基礎的な学習内容である知識・技能を確実に習得できるようにする。

授業改善推進プラン

教科名【数学科】 学年【９年】

生徒の状況	・習熟度別少人数授業実施（２クラス３展開） ・全体的に集中して授業に取り組んでいる。 ・互いに教え合う活動が充実している。 ・意欲的に授業に取り組むことができおり、積極的に自分の考えを数式やことばで伝えようと努力している。 ・令和７年度全国学力・学習状況調査において、本校は全国平均より＋２１ポイント、都平均より＋１６ポイント上回っていた。全体的に基礎学力が定着している。 ・入試形式の問題に対しての対応力には課題がある。
指導についての課題	・中学校で学ぶ基礎・基本となる学習内容の定着が十分でない生徒への支援を充実させること。 ・文章題を苦手としている生徒が多くいるため、文章から必要な数値や情報を文字式等で表すことができるよう指導すること。 ・授業内で自分の考えを式やことばで表現したり他の人の考えを式やことばから読み取ったりする機会を充実させること。
授業改善に向けての具体的な方策	・定期テストや小テスト、学習課題への取り組みにより生徒の理解度を適切に把握し、補習等により生徒に必要な支援をする。 ・学力向上専門員と生徒の学習情報を共有し、個別指導が必要な生徒への支援を充実させる。 ・解法やわかったことを発表する際、数学的な用語を用いて説明できるように促す。また、ノートのまとめ・ふりかえりの活動を充実させる。 ・問題文の数値や着目すべきことばに線をひくことや、表に整理すること、図に書くことなどを通して読み解く力の向上を目指す。また、読み取ったことを文字式等で表す力を向上させる。 ・教科書を使った家庭学習の充実を目指し、基礎的な学習内容である知識・技能を確実に習得できるようにする。 ・入試形式の問題を授業内に取り入れ学びなおしの機会にすると同時に解法の知識・技能の向上を目指す。

授業改善推進プラン

教科名【理科】 学年【7年】

生徒の状況	・ 1 クラス 32 人前後、4 人班で観察・実験・班活動を行っている。 ・ 理科への興味・関心が高い生徒が多い。特に観察には積極的に関わる生徒が多い。 ・ 自然の事物を定性分析することや抽象的に捉えることに長けている生徒が多い反面、 計算やグラフ、作図等で定量的に捉えることを苦手になっている生徒が多い。
指導についての課題	・ 教科書を読み解くことが困難な生徒もいる。じっくりと丁寧な指導が課題である。 ・ 自信をもって発言することができない生徒もいる。ICT を用いたり列指名をしたりすることで、自信をもたせていくことが課題である。 ・ 観察の結果をスケッチしたり、特徴をそのまま記録することはできるが、複数の結果から共通の特徴を見いだすことなど、推論するを身につけていく指導が課題である。
授業改善に向けての具体的な方策	・ 教科書を自ら読み解こうとする工夫 授業中は大切なポイントに線を引いたりメモをとったりするように指示する。 ・ 主体的に観察・実験を行う工夫 班内の一部の生徒だけで進めていくことがないよう、役割分担を確実にする。 ・ 科学的に探求する力の育成 探求的な課題を設定し、班活動を通して、主体的に取り組めるようにする。 ・ 個々の生徒への対応 授業内に問題演習時間を多く確保し、机間巡視で対応する。 ・ 振り返りの時間の充実 振り返りシートをもとに学習内容と自らの学習行動を振り返り、自己の変容をしっかりと把握できるようにする。

授業改善推進プラン

教科名【理科】 学年【８年】

生徒の状況	・ 8 学年は教室移動がしっかりと行うことができていることから授業に向かう姿勢の向上を感じる。話し合い活動の席の移動も素早く行うことができ、いろいろな教科で行う成果が表れていると考える。班討議の場面でも、実験の結果から主体的に考える力が育っていると考える。1 学期の定期考査の主体的に学習に取り組んでいるかを問う問題でも 62%の生徒が正答をしており、生徒が意欲的に取り組んでいることが読み取れる。
指導についての課題	・ 教科書を使う指導を心がけ、観察・実験に使う教材を教科書の書いてあるものを用意して行い、映像に頼ることなく理科室を使う観察・実験を実施し、手や足を動かして、生徒同士が協力して何かを成し遂げた成就感をもてるようにする。 ・ 観察・実験レポートを書くことで、自らの表現力を高めることができるようにする。 ・ プリント類はファイルに保管しやすいように A 4、または A 3 にする。また、板書の活字を大きくする等、わかりやすい絵や図を心がけ、書く時間をとるようにする。解説は、わかりやすい言葉にする。 ・ 単元のまとめやふりかえりを行うときに、教科書を生徒に開かせるだけでなく電子黒板に写して共有するなど、後で復習をするときに教科書を読み解くことができるようにする。
授業改善に向けての具体的な方策	・ 上記に記述した課題について今までも取り組んできたが、それぞれの指導の場面で工夫を加えた改善を図る。 ・ 教室における学習に、班での話し合い活動を積極的に行い、発表をすることで学習に能動的に取り組むようにようにする。

授業改善推進プラン

教科名【理科】 学年【９年】

生徒の状況	・理科への興味・関心が高い生徒が多い。 ・グループワークの際、自分の意見を言える生徒が多い。 ・授業内の課題に取り組む意欲は全体的にある。 ・自身で課題を設定し、取り組める生徒が昨年度より増えた。 ・一人一台端末を用いて Google のスライドやドキュメントを活用し授業を行っているが、タブレット端末を自由に扱うことができる生徒が多い。
指導についての課題	・自然科学に対して興味・関心が高い生徒が多いが、継続してじっくり取り組むことが苦手な生徒もいる。集中しやすい雰囲気をつくっていくことが課題である。 ・科学的なことに興味・関心が高く、積極的に発言する雰囲気があるが、取りかかるまでに時間がかかる生徒もいる。個別の声かけや支援が課題である。 ・すでに学習を進めている生徒もいるため、与えられた課題のみを行い満足するのではなく、生徒自らが計画的・自主的に学習を進められるような支援が課題である。
授業改善に向けての具体的な方策	・科学的に探究する力を育成する。 ・より生活に基づいた題材でイメージしやすくなるように心がける。 ・自然の事物・現象の中に問題を見いだせるよう課題を設定し、導入部分を工夫する。 ・見通しをもって観察・実験などを行えるよう、条件を検討し実験を計画する活動を多く設定し、主体的に取り組めるようにする。 ・科学的思考力を高めるため、得られた結果を分析して解釈する活動を行う。 ・上述の活動を I C T 機器や各種ソフトを用い行う。I C T 機器を活用し、意見交流の時間、思考の時間を増やし、分析や解釈する活動を重点的に行いやすくする。 ・定期的に宿題や小テストを課すことで、家庭学習の時間を増やし、反復と定着を図る。 ・長期的な課題を設定し、どのように学習していくか計画を立てる機会を設ける。

授業改善推進プラン

教科名【英語科】 学年【7年】

生徒の状況	・クラス単位授業実施 ・全体的に元気に授業に取り組んでいる。導入にはビンゴや1分間 Talking（30秒からスタート）などの Activity を取り入れ、読み、書き、話す、やりとりの4技能を取り入れた活動には積極的に取り組んでいる。 ・小学校で習っていたことは話せるが、書くことに時間がかかることが多い。ビンゴの記入は家庭学習にしているが、一部の生徒に課題がみられる。
指導についての課題	・教え合いができるペアやグループ分けの工夫。 ・基礎基本の力や課題提出が不十分な生徒への対応。 ・家庭学習の定着。 ・教科書本文の音読練習の継続。 ・自分の考えや思いを言語化する練習。
授業改善に向けての具体的な方策	・板橋区授業スタンダードに則り、授業の最初には Today's Goal を示し、最後に Goal に対する「ふりかえり」を着実にを行うことにより、何を学び、どのような力がついたかを意識できるようにする。 ・ICT 機器などを積極的に利用し、生徒の興味・関心を高め、よりわかりやすい授業を目指す。ICT を活用して、提出物や小テストなどの連絡を密に行い、家庭学習の定着を図る。 ・協同学習を多く取り入れ、学び合う力や英語での表現力を高める。 ・Unit ごとの小テストやノート・ワークへの取り組みを通して、繰り返し「書くこと」の練習を行う。 ・ALT を活用し、より実践的な場面を設定しての活動や、パフォーマンステストを実施する。

授業改善推進プラン

教科名【英語科】 学年【８年】

生徒の状況	・少人数授業実施（２クラス３展開） ・全体的に前向きに元気に授業に取り組んでいる。導入では「読みトレ」で速読を、one minute talking で自分の意見を相手にわかりやすく英語で伝える活動を継続的に取り組んでいる。 ・UNIT ごとに各自が抱える課題に着目し、主体的に学習を進める自己学習の時間を設けた結果、生徒同士で教え合い理解を深める場面が飛躍的に増えた。 ・ペアワーク、グループワークやリテリングなどの言語活動にも主体的に参加しており、英語で表現し、相手に伝えようとする前向きな姿勢が見られる。
指導についての課題	・教え合いができる少人数クラス編成の工夫。 ・基礎基本の力や課題提出が不十分な生徒への対応。 ・スピーキングテスト導入に向けた対策。 ・自分の考えや思いを言語化する練習。
授業改善に向けての具体的な方策	・板橋区授業スタンダードに則り、授業の最初に Today's Goal を提示し、「ふり返り」を行うことで、これから何を学び、どのような力がついたかを意識できるようにする。 ・ICT 機器などを積極的に利用し、生徒の興味・関心を高め、よりわかりやすい授業を目指す。 ・Unit ごと小テストやノート・ワークへの取り組みなどを通して、基礎的な力、応用する力を養う。 ・ペアワーク・グループワークなどの協同学習を多く取り入れ、学び合う力や英語での表現力を高める。 ・ALT を活用し、より実践的な場面を設定しての活動や、パフォーマンステストを実施する。

授業改善推進プラン

教科名【英語科】 学年【９年】

生徒の状況	・少人数授業実施（２クラス３展開） ・授業の冒頭では、７年時から継続しているチャット活動（既習文法の復習やテーマに沿った２分間の英会話）と、昨年度から取り入れた「読みトレ」を組み合わせた帯活動を行っている。どの活動にも、生徒は意欲的に取り組んでいる。 ・ペアワーク、グループワークやリテリングなどの言語活動にも主体的に参加しており、英語で表現し、相手に伝えようとする前向きな姿勢が見られる。
指導についての課題	・基礎・基本の定着が不十分な生徒への支援を充実させる。 ・スピーキングテスト対策として音読・速読・多読（読みトレ）、チャット活動、教科書本文読解後のリテリング活動に取り組んでいるが、特に授業内でのリテリング時間の確保が課題である。 ・英作文が苦手な生徒が多いため、理由を添えて自分の考えを伝える力を育てることを目的に、自分の意見や思いを言葉で表す OUTPUT の機会を充実させる。
授業改善に向けての具体的な方策	・授業冒頭に「Today's Goal」を示して学習の目的を明確にし、最後に「振り返り」を通して身に付いた力を言語化させる。 ・ICT 機器などを積極的に利用し、生徒の興味・関心を高め、よりわかりやすい授業を目指す。 ・Unit ごと小テストやスピーキングテスト、ノート・ワークへの取り組みなどを通して、基礎的な力を養う。 ・ペアワーク・グループワークなどの協同学習を多く取り入れ、学び合う力や英語での表現力を高める。 ・ALT を活用し、より実践的な場面を設定しての活動や、パフォーマンステストを実施する。 ・都立入試の問題形式に慣れさせ、ある程度の回答パターンや基準を各自で確立させる。

授業改善推進プラン

教科名【音楽科】 学年【全学年】

生徒の状況	・積極的に授業に取り組んでいる生徒も多く、意見や考えを発表し相手に伝えようとする生徒も増えてきている。 ・学習意欲に前向きな生徒が授業の活気を高めてくれており、グループ活動などでは中心となる場面が見られる。
指導についての課題	・音楽について得意な生徒とそうでない生徒の差があることが課題と感じている。 また、楽曲について特徴を捉えたり、表現について工夫するなど考えをもち、まとめる学習では受け身になることが課題である。
授業改善に向けての具体的な方策	・基礎的な情報を定着させる。 ・自分の感じた変化や考えに自信を持つことを大切にさせる。 ・様々な音楽を通して、独創性、創造力の育成を感じ取らせる。

授業改善推進プラン

教科名【美術科】 学年【全学年】

生徒の状況	・ほとんどの生徒は授業に集中して取り組んでおり、授業態度は良好である。ただ、与えられた課題に対してはきちんとこなそうとするが、更により高い次元に挑戦しようとする向上心や完成度を高めようとする意欲的な生徒は少なく、やや積極性には欠ける。 ・一部授業の課題についていけない生徒がおり、集中力が途切れないように個別指導をしている。
指導についての課題	・授業の課題についていけない生徒が一部おり、個別指導に時間がかかる。 ・技能面でより重点的に力を発揮しようとする生徒が多いが、一方で発想・構想の能力を伸ばそうとする意欲には欠ける。 ・生徒は創造的な経験値が乏しいため、発想を膨らませるための方法が見出しにくいようである。
授業革新推進に向けての具体的な方策	・他の人の作品を鑑賞しながら、自分の作品と比較したり組み合わせたりして参考にし、よりよい作品を創り出す場面を設定する。 ・多くのアイディアが浮かぶようにより多くの参考作品を示し、より具体的な作業内容の説明を行うようにする。 ・本時の具体的なめあてを提示し、生徒がめあてに対して振り返りを行う時間を毎時間設定する。

授業改善推進プラン

教科名【保健体育科】 学年【全学年】

生徒の状況	・運動が好きな生徒と苦手な生徒の運動能力差が大きい。 ・意欲的に授業に取り組み、ペアやグループで教え合いながら技能を高め合おうとする生徒が多い。 ・9年生になると授業で学んだ技能ポイントを学習カードに工夫しながら記入できる生徒が多くなるが、7、8年生で記入できる生徒は多くない。 ・保健の授業で積極的に発言できる生徒は多いが、特定の生徒の発言が目立つクラスもある。
指導についての課題	・生徒が自分の動きを客観的に見て分析し、思考判断力を深められるようにすること。 ・生徒同士の学び合いでは、技能ポイント等を活用させ抽象的ではなく具体的な言葉で伝えたり、学習カードに記入できるようにさせたりすること。 ・保健や体育理論の授業を充実させ、実技の授業と関連付けられるようになること。
授業改善に向けての具体的な方策	・実技単元を実施前にアンケート調査を行い、運動能力別に学習ペアやグループを設定する。 ・一人一台端末の動画撮影を活用し、生徒が自分の動きを客観的に見て、思考判断力を深められる場を多く設定する。 ・技能ポイントを絞って指導し、話し合いの場で活用するように指導する。学習カードの記入法を説明し、見本を classroom に参考資料として掲示する。提出期限を明確に伝達する。 ・自身で競技のルールを考えさせ、試合等で運動が苦手な生徒も楽しめるようにする。 ・保健や体育理論の授業で実習を行ったり、生活と結びつきのあるテーマの調べ学習などを取り入れたり、発表の場を設ける。 ・板橋区授業スタンダードの徹底。特に「ふりかえり」の時間を確保できるようにする。

授業改善推進プラン

教科名【技術・家庭科】（技術分野） 学年【全学年】

生徒の状況	・作業、座学ともに集中して意欲的に取り組んでいる。 ・作業や学習で分からないところ、理解しきれていないところは生徒同士で教え合いながら進めている。 ・毎時間の振り返りでは学年が上がるにつれ、内容が濃く、自分の考えや作業等で気がついたことが書けている。自分の考えや日常生活と結びつけて考えることができる生徒が増えた。 ・説明書を読むことが苦手、写真から仕組みがどのようになっているのかを理解すること、読み解くことが苦手な生徒も見られる。
指導についての課題	・班やグループでの話し合い活動、協同学習が少ない。 ・作業手順、内容の理解を深められていない。
授業改善に向けての具体的な方策	・単指示を徹底し、作業工程や内容を理解できるよう詳細に説明をしていく。作業手順を示したものを動画やプリントで作成し、自分でも適宜確認できるようにする。 ・一人一台端末を活用し、グループ活動を増やしていく。

授業改善推進プラン

教科名【技術・家庭科】（家庭分野） 学年【全学年】

生徒の状況	・座学时→4～5人×7班、実習时→3～4人×8班 ・1学期はほとんどが座学で最後の2～3回のみ実習（裁縫） ・裁縫では、はじめに教員が手元のカメラを映した画面を観ながら見本をみせ、一緒に練習をする。その後課題を与え Classroom にある動画を参考にしながら個人で進めていく。 ・座学では7年生は手を挙げる生徒が多く、自らの生活を反映させた個性豊かな内容が多い。8、9年生はメモを取る等集中して話を聞いているが、発言は少ない。 ・グループワークは全学年お互いに意見を出し合いながら良好に取り組んでいる。 ・7年生の裁縫では、やり方を理解し切れていない生徒が、立ち歩いて他のグループの生徒に教えてもらいに行く等、騒がしくなる場面が見られた。8、9年生はほとんどの生徒が動画を観ながら自主的に集中して取り組んでいる。しかし、一部裁縫が不得意な生徒は動画でも理解できないことが多く、その都度1対1で実演しながら教えているため、他の生徒を見る時間がなくなってしまうことがある。
指導についての課題	・自信がないためか座学において8、9年生の発言が少ない。または固定の生徒のみが発言している。 ・裁縫が不得意な生徒への対応に時間を取られすぎてしまっている。 ・常にグループで向かい合う座席のため、一部仲の良い生徒が盛り上がりすぎてしまうことがある。
授業改善に向けての具体的な方策	・生徒から意見を聞く前に、話し合いの時間を入れてみる。 ・参考になる動画を載せるのではなく、生徒が行う課題そのものの動画を作成する。 ・クラスの間人間関係を考慮して座席を考える。